

活動団体： 公益財団法人オイスカ

～すべての人々が様々な違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指す～

団体の活動



オイスカは主に、アジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなれるような研修を行っています。オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発や地域活性化に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催を通しての啓発活動や、植林及び森林整備における環境保全活動を展開しています。

<https://oisca.org/>



桜の木の前で研修生とスタッフ揃っての記念撮影



落花生と枝豆の畑。今年から、インターン生が管理を担当し、試行錯誤中。

インターンプロフィール

山崎 敦也



IT 会社のエンジニアを退職し、農業を通じた国際協力を目指してオイスカ活動に参加。ボランティア期間を経て、2022 年からオイスカ四国研修センターで職員となる。

所属団体で活動するきっかけ

私は、土と触れ合う「農業」を通じた国際協力がしたいと考え、自身の農業技術と指導力の向上を図るためにオイスカで活動しようと決心しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

私の業務は、海外からの研修生と共に有機農業を行いながら農業指導を行っております。また、広報誌の作成、研修生のスケジュール管理などを行っております。

1年目を終えて感じたこと

対外的な業務が増えたことで、現場との距離を密接に感じることができました。また、他団体の活動を知ることができ、国際協力における知見の幅が広がりました。

スキルアップのためにしていること

自然資材を利用した有機栽培技術の勉強をしています。例えば、近隣のうどん店から廃棄されるカツオ・いりこ・昆布のだし殻を使用したボカシ肥を作成し、畑に撒いています。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

スリランカの事業所で、現地の青年組合を巻き込んだエコキャンプやガーデニングプログラムを実施する予定です。

今後のビジョンは？

国内研修センターで有機農業技術や事務処理能力の習得を続けながら、海外の現場で駐在員を目指しています。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

華々しい海外の現場に目がいきがちですが、まずは、日本のことに目を向けてほしいです。自国のことを理解することで、海外での活動の幅がさらに広がると思っています。

団体のアピール

1961年に発足し、今年で62年目を迎えました。41の国と地域で国際協力活動を展開し、国連社会理事会カテゴリー1(ジェネラル)に位置付けられています。既に日本で研修を受けて、母国で活躍している人材は6000名超。農業従事者もありますが、企業家、政治家として国を動かす人材も多く輩出しています。